

シタラミヤマヒサゴメツキ *Homotechnes motsulskyi suzukii* Ôhira

【選定理由】

本州と四国の高山帯に分布し、後翅が短小化して飛翔ができないため、産地ごとに生殖隔離で生じたと思われる固有の形態上の変異が見られ、現在 50 余の亜種に分類されている。高山帯が存在しない愛知県内からは未知であったが、2005 年 6 月に設楽町岩小谷山 (標高 799m) の谷で見出された雌個体に基づいて、上記の亜種名を付して新亜種として記載された (Ôhira, 2006)。愛知県固有の亜種である。



♀  
設楽町岩小谷山, 2005 年 6 月 4 日, 鈴木栄二 採集

【形態】

体長は 9~10mm 内外。体は黒色~黒褐色で光沢を有し、上翅の側縁部と体下面などは暗褐色、触角は暗褐色 (基部 3 節は黄褐色) で肢は黄褐色である。原記載は雌個体でなされたが、その後に雄個体も見出された (大平・鈴木, 2007)。図は体長 9mm の雌個体。

【分布の概要】

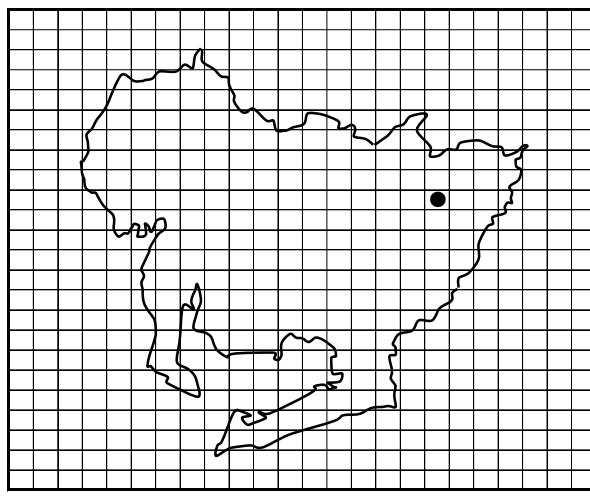
【県内の分布】

現在は岩小谷山が唯一の産地である。周辺には類似した山が存在しているため、今後はその周辺の分布の可能性についても調査することが必要である。

【国内の分布】

本州と四国の高山帯に分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

成虫も幼虫も谷沿いの岩石の隙間や堆積物の下側などに生息しており、幼虫は活発に活動して捕食性を有する。

【現在の生息状況／減少の要因】

本亜種がこの山に隔離されて分布するに至った経緯は、過去のこの地域の地質地形の変異の歴史にあると思われるので、その解明が必要である。

【保全上の留意点】

本種はこの山に隔離されて分布しており、個体数や生息範囲も限定されているので、現在の生息環境を保全し、採集圧なども加えないことが必要である。

【引用文献】

Ôhira, H., 2006. New or Little-known Elateridae (Coleoptera) from Japan, XLVIII. Elytra, Tokyo, 34 (1): 153-155.  
大平仁夫・鈴木栄二, 2007. 愛知県岩小谷山産のシタラミヤマヒサゴメツキについて. 鳳来寺山自然科学博物館館報, (36): 1-4.

(2009 年版を一部修正)